

2020. 10. 03

## With コロナでも新しい地域活動を模索して

副会長 江尻 哲二

新型コロナウイルス感染症が続く中、今年度の半分は終わってしまいました。当自治会の総会、役員会、班長会もなかなか開催できず、ほとんど資料回覧・配布を行うだけで、また各種イベントもほぼ中止という状態が続き、皆さんと顔をあせて話し合うことが、ほとんどできない状況でした。

3蜜を避けるためソーシャルディスタンスが必要と言われていますが、確かにフィジカル(身体)ディスタンスは必要ですが、ソーシャル(社会的交流)ディスタンスはむしろ蜜の方が望ましいと思っています。

この下期もこの状態が続くと思われませんが、このソーシャルディスタンスの動きに少し変化が見られるようになってきました。人と人の接触する機会が減り、市民活動やボランティア活動もその力を発揮できにくい状況となっていることから、自治会や各種福祉活動などの様々な再開に向けての取組みが始められています。例えば、横浜市では、地域の絆である自治会活動を活性化していくため、ICTを活用した新しい活動を支援する事業を立ち上げています。全国社会福祉協議会も ICT などコミュニケーションツールを活用したつながりづくりを提唱しています。

今回、打合せや飲み会でもオンラインに移行するなど、日常生活のさまざまな場面でのオンラインの導入も進んできました。これら変化から見て、我々自治会活動にもできる範囲で導入し、顔の見える活動に繋がれば、と思っています。その節には、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

以上